

<施工図システム>

- 1.本柱配置 ダミー柱の設定の追加
- 2.ベース作成 ジャストベース(JEⅡ)対応
- 3.ブレス配置 丸棒の部材入力の形式追加
- 4.柱詳細 詳細図の出力サイズに A3 を追加
- 5.柱詳細図・単品図 胴縁ピースの作図色の設定を追加
- 6.間柱詳細図 ファイル名に図面番号を付ける設定を追加
- 7.梁切断リスト 長さの修正
- 8.RB ブレス、羽子板の先端を弧で作図するよう修正。
- 9.梁単品図、2重梁で母屋の追い寸がピッチと違う不具合の修正。
- 10.梁単品図、火打ち梁と同じポイントにある天吊ガセットの位置がずれる不具合の修正。
- 11.梁単品図、水下側の受けが斜め梁における母屋ピース位置の不具合の修正。
- 12.軸図作成、CT 使用の小梁ガセットをエディットすると作図がずれる不具合の修正。
- 13.取合システムとの連動時、C ドライブ以外にインストールした場合の不具合の修正。
- 14.柱単品図、立面図の斜め梁の勾配が逆になる不具合の修正。
- 15.軸図、ダミー梁の上に乗るペント柱の作図を修正。
- 16.原寸型紙、工区別けでガセットを出力しない不具合の修正。

<胴縁システム>

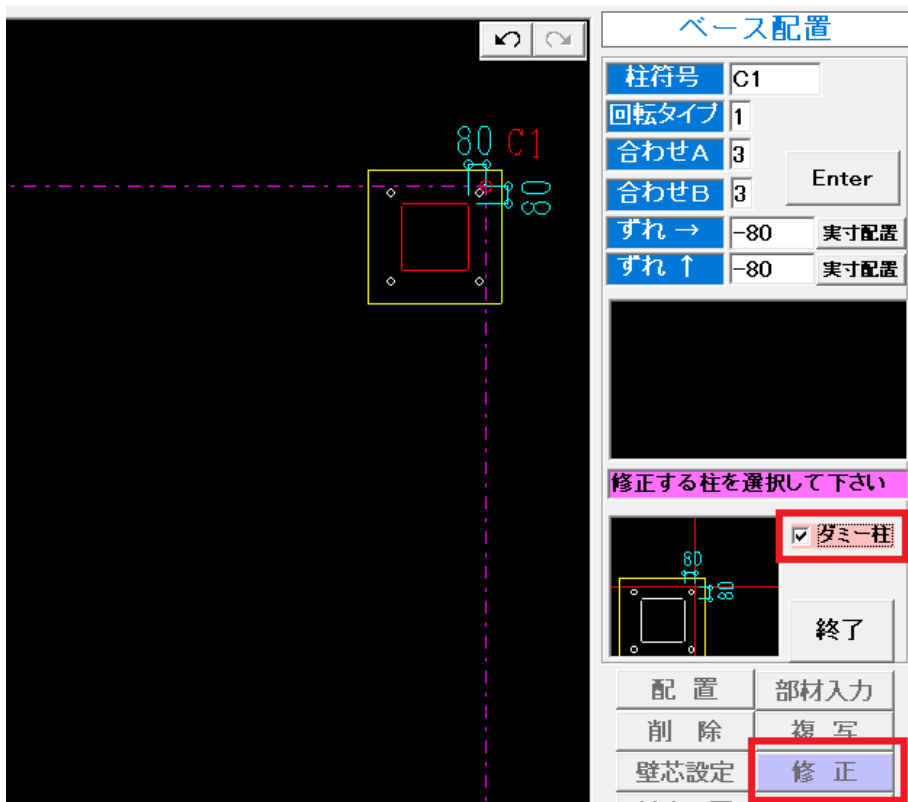
- 1.DC 材の加工図の出力の変更
- 2.施工図変換 斜め通り裏軸の対応
- 3.図面読込 施工図変換データに関する対応
- 4.工区マスタ 合番一覧の表示を修正
- 5.集計表 マークの個数出力
- 6.データ変換 取合の計算方法について
- 7.データ変換 胴縁・ピースの数の追加
- 8.胴縁の集計、DC 材を C 材として集計する場合にマーク（孔加工）が反映されない不具合の修正。
- 9.胴縁個別修正、配置位置をそのまま刃の向きを変更するとマグサピースが削除される不具合の修正。
- 10.NC 変換、ジョイント 4 孔ピースが別の C 鋼に干渉する場合に孔位置がずれる不具合の修正。
- 11.抱き合わせの組立図、コーナー角 P を同じ長さの角 P と抱き合わせた場合に逆側の胴縁を作図しない不具合の修正

<施工図システム>

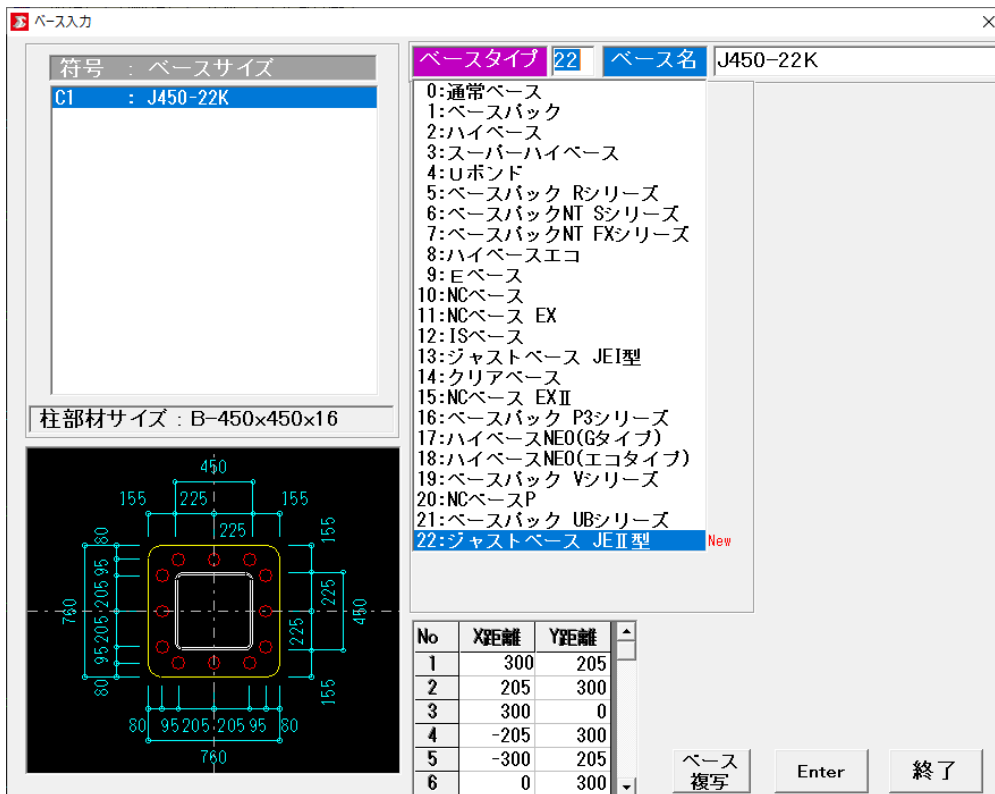
1. 本柱配置 ダミー柱の設定の追加

<本柱配置>-<修正>にてダミー柱に変更できるよう対応しました。

ダミー柱に変更した場合、配置画面・一般図は点線で表記、加工図や材料リストには表記されません。



2. ベース作成 ジャストベース (JE II) 対応



3. ブレス配置 丸棒の部材入力の形式追加

<ブレス部材入力>にて「M径」で入力できるよう対応しました。配置方法は従来通りです。積算変換時は「RB-」で変換されます。

符号	部材	R	規格	継手符号
V1	M16	0	SS400	VJ1

	V1	V2		
2FL	M16	M20		
RFL	M16	M20		
R'SL	M16	M20		

[ESC] 終了 [*] 新規 [-] 削除 [+] 複製

※「P・B・C・2C」は平面ブレスで使用できません。
 ※軸ブレスは部材サイズ欄に符号を登録して下さい。

< L > < 2L > < DL >
 $\frac{L}{L}$ $\frac{L}{F}$ $\frac{JL}{L}$
 丸棒はMまたはRBで入力して下さい。

4. 柱詳細 詳細図の出力サイズに A3 を追加

<柱詳細>-<出力設定>にて詳細図の場合にも A3 で出力できるよう対応しました。

出力設定

出力方式	1
出力方向	3
出力文字サイズ	3
文字幅比 (%)	60
用紙サイズ	1
図面レイアウト	50
キープラン縮尺	210
仕口部納まり詳細表示	2
柱詳細 柱全長寸法表示	1
タイコ、シャフト合番	2
製品マーク、合番設定	2
全断面出力(柱詳細)	2
柱・梁部材 文字幅比 (%)	60
梁部材引出線表記	1
合番表記	1
断面 梁ツラ表示	2
吊りピース表示	2
ガス抜き穴設定	2
平面レイヤー設定	1
対角寸法表示	2
勾配率表示	2
折半受け合番表示	2
配筋表(柱準品図)	2
配筋表(梁準品図)	2

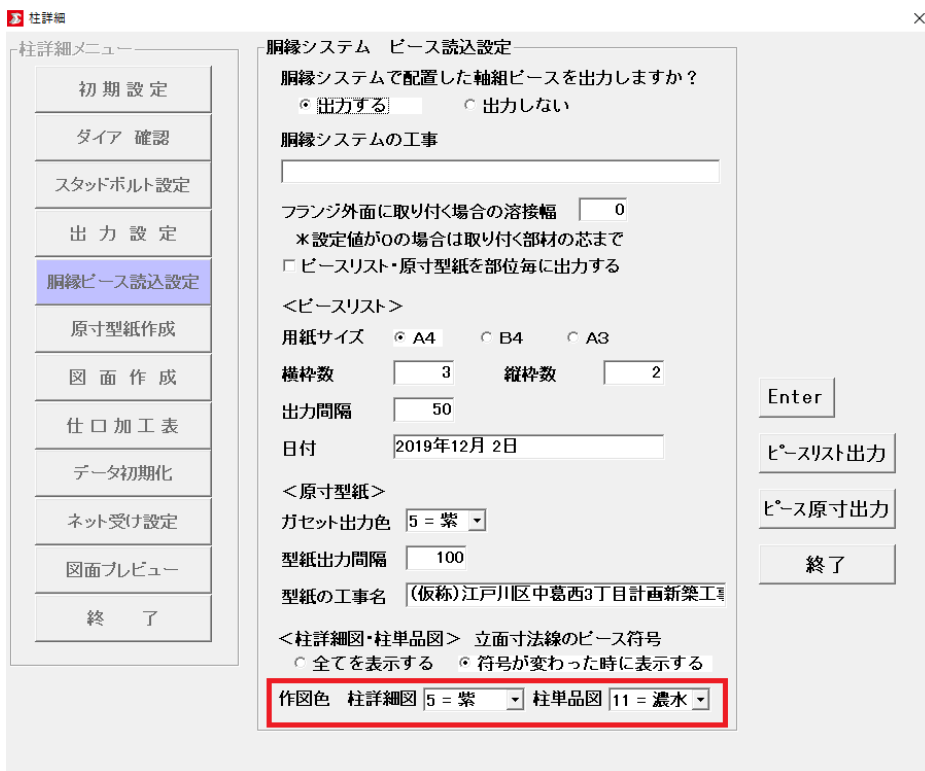
A3 = 1
 B4 = 2
 A1 = 3

※柱詳細図はA1・A3のみ選択可能

Enter 終了

5. 柱詳細図・単品図 胴縁ピースの作図色の設定を追加

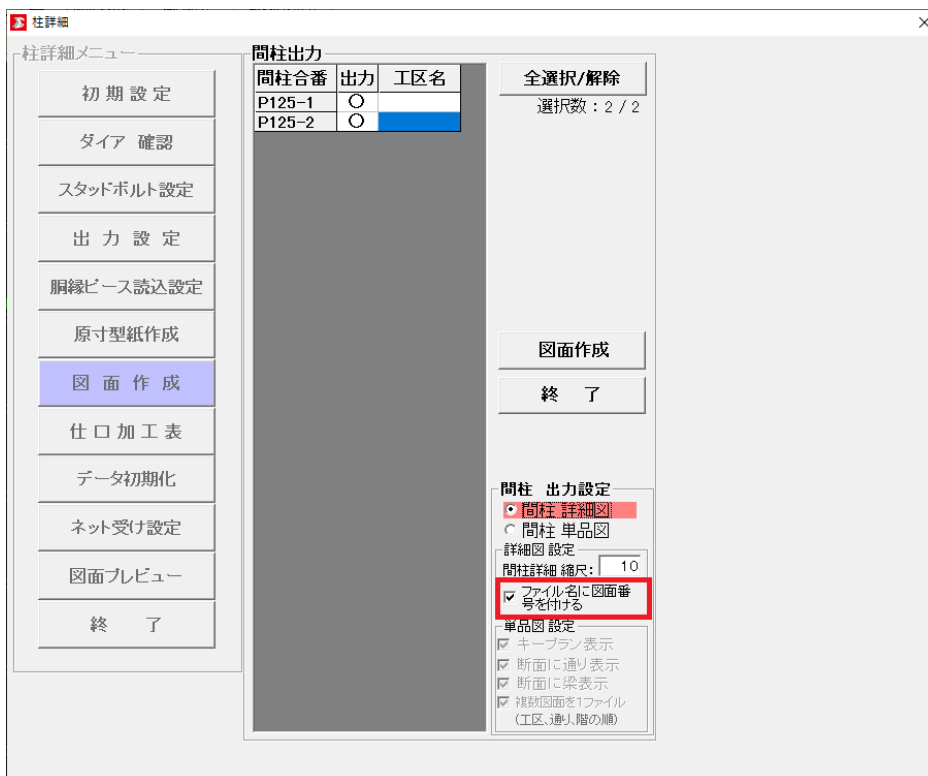
<柱詳細>-<胴縁ピース読込設定>にて胴縁ピースの作図色の設定を追加しました。初期値は詳細図が紫、単品図が濃い水色です。



6. 間柱詳細図 ファイル名に図面番号を付ける設定を追加

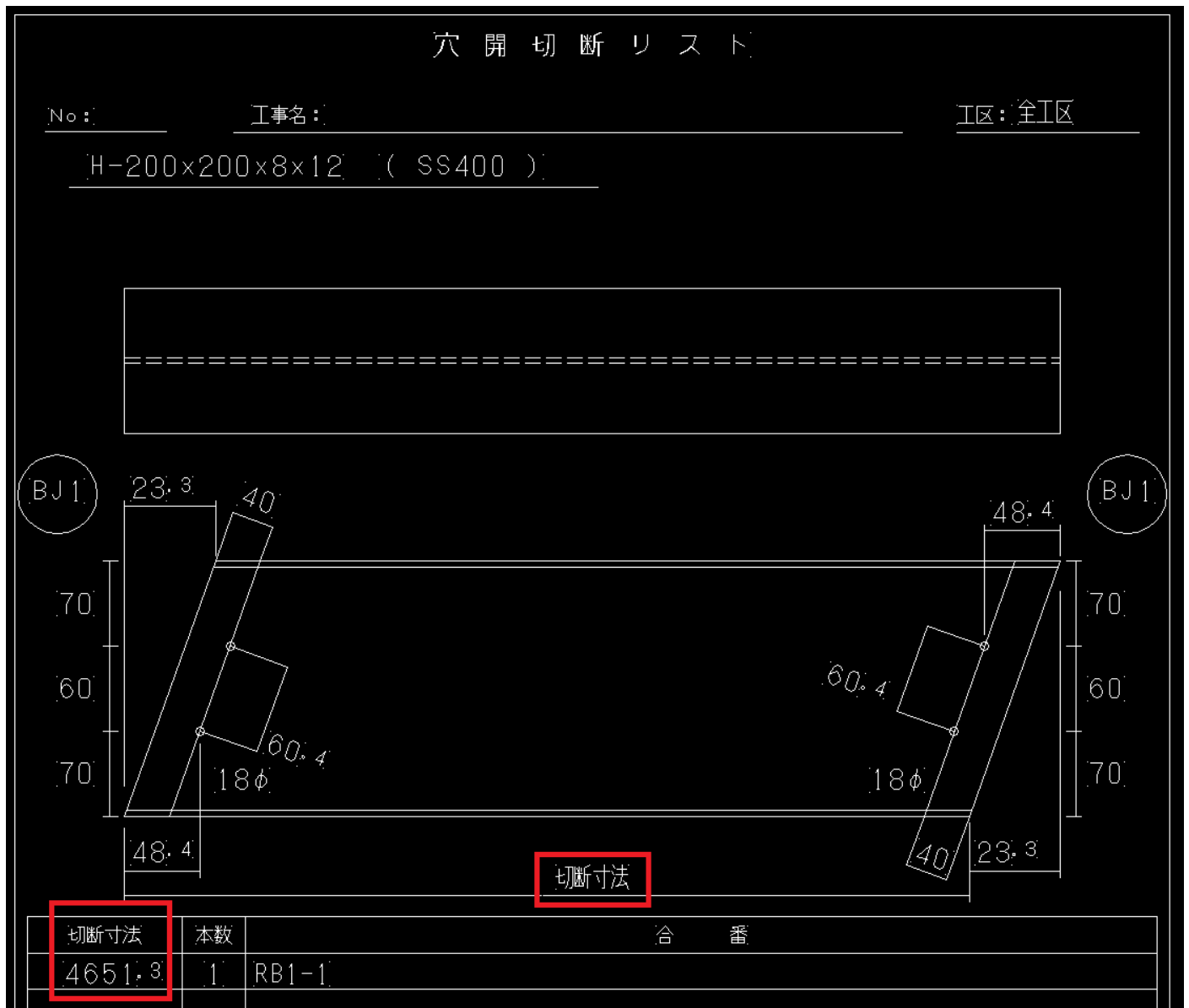
図面プレビュー画面、左のNo.欄の番号が DXF もしくは TDF ファイル名の先頭につきます。

例：図面プレビュー画面にてNo.1 に図面を作成 → DXF ファイル名「001 間柱詳細 P1-1.DXF」



7. 梁切断リスト 長さの修正

両端ウェーブカットあり設定時、切断寸法を先端～先端で抑えから上下辺で長い方を表示するよう修正しました。



<胴縁システム>

1. DC 材の加工図の出力の変更

<初期設定> - <出力設定> - <その他>加工図・NC データ出力ファイル、溶接加工の有無でファイルを分けるにチェックを付けている場合、DC ライナーのボルトを溶接加工有として加工図を出力するよう変更しました。

出力設定

集計1 | 集計2 | 割付図 | 加工図1 | 加工図2 | 加工図3 | 加工図4 | その他

ピースリスト 用紙サイズ
 A4 B4 A3

集計表 用紙サイズ
 A4 B4 A3

加工図・NCデータ 出力ファイル
 溶接加工の有無でファイルを分ける
※この設定は全工事共通です

プリンタ出力時の線幅 (加工図・ピースリスト) **線種の設定**
リストの枠(緑色)
その他
※この設定は全工事共通です

工事別の設定です

2. 施工図変換 斜め通り裏軸の対応

施工図システムの<図面レイアウト> - <裏軸設定>にて指定した斜め通りの裏軸設定が反映するよう対応しました。

3. 図面読込 施工図変換データに関する対応

施工図変換データの表軸図・裏軸図を変更した場合はメッセージを表示するよう変更しました。バージョンアップ後に施工図変換した物件から適用されます。

図面読込

番号	図面ファイル名	通り名	胴縁芯	方向(-)	方向()	縮尺	種類	胴縁数	原	額
1	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\1,2\通り軸組図.dxf	1	0	← A	↑ 上	40	表軸図	0		
2	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\1,2\通り軸組図.dxf	2	0	← A	↑ 上	40	表軸図	0		
3	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\A,B\通り軸組図.dxf	A	0	← 1	↑ 上	30	表軸図	0		
4	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\A,B\通り軸組図.dxf	B	0	← 1	↑ 上	30	表軸図	0		
5	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\C\通り軸組図.DXF	C	0	← 1	↑ 上	30	表軸図	0		
6	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\z\通り軸組図.DXF	z	0	← A	↑ 上	40	裏軸図	10	○	

原=原点入力・額=領域指定(原点設定で行います)

図面番号を選択して下さい

番号	図面ファイル名	通り名	胴縁芯	方向(-)	方向()	縮尺	種類
6	C:\シグマF1\施工図\物件\25\一般\z\通り軸組図.DXF	z	0	← A	← 上	40	裏軸図

図面読込

z 通りの種類が「表軸図」に変更されました。
 施工図のレイアウトは「裏軸」に設定されています。

OK

表軸図
 裏軸図
 平面図
 その他

4. 工区マスタ 合番一覧の表示を修正

入力行が画面下に移動した時に入力行が最下行になるようにしました。

5. 集計表 マークの個数出力

<ピース編集>-<手動配置>マークを名称毎に個数を出力するよう変更しました。

工区	マーク	個数	孔径
1	Φ20	2	
	Φ22	2	
計		4	

6. データ変換 取合の計算方法について

伸縮など編集した配置済の胴縁の取合の変わらないように、今回追加した胴縁だけの取合いを計算するよう変更しました

7. データ変換 胴縁・ピースの数の追加

＜図面読込＞－＜データ変換＞一度に変換できる数を胴縁部材は 10 種類、軸組ピースは 2 種類まで増えました。軸組ピースは、孔数が多いものを左側の欄に登録してください。

作図の設定 | 部材1 | 部材2 | **ピース符号** | その他

図面から読み込む直線の色と線種を選択して下さい New

部材6 マグサ
部材幅
厚み

部材7 マグサ
部材幅
厚み

部材8 マグサ
部材幅
厚み

部材9 マグサ
部材幅
厚み

部材10 マグサ
部材幅
厚み

実線 ————— 一点鎖線 - - - - -
破線 — — — — — 二点鎖線 - - - - -
点線 - - - - -

作図の設定 | 部材1 | 部材2 | **ピース符号** | その他

ボルトの直線 紫 実線

胴縁ピース 直交

胴縁ピース 斜め

胴縁ピース マグサ

接続ピース 直交

接続ピース 斜め

軸組ピース jL4 jL2 New

図面にボルトの直線が作図してある場合にピースを配置します
軸組ピースを2種類入力する場合は、孔数の多い方を左側に入力して下さい。

[ピースを配置する条件]

- ・色と線種が設定と同じ
- ・直線の長さが設定の範囲内
- ・胴縁の直線と垂直に交差する(突き抜けている)
- ・端明、ピッチがピースの寸法と合っている

※軸組ピース(柱・梁)は「ピース編集」で自動配置できます(図面にボルトの直線は不要です)

ピースの干渉チェック
(胴縁ピースと軸組ピースの重なりに)
 干渉するピースは変換しない